

一級自動車工学科		2023年度		授業計画	
時期	4年C巡	単元	実習	教科名	評価実習Ⅱ
科目	評価実習	教科書等 持参品	定期点検作業要領書	発行日	2023年4月1日
			3年次配布保安基準資料		
総時限	36時限			教科担当	原田 / 坂詰 ●■ 滝波 / 本橋 ●■
<b>1. 指導教員の実務経験</b>					
自動車整備士として自動車整備全般の実務経験を持つ教員による授業。					
<b>2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 確実な法定2年定期点検作業を身につける</li> <li>② 時間を意識して正確な作業と測定ができる</li> <li>③ 行った点検整備を正しく記録簿に記入できる</li> </ul>					
<b>3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的なご用命事項の法定2年定期点検を、定めた基準時間内で作業を完了でき、他メンバーの指導、支援ができる。</li> <li>・各車種の正しい定期点検方法を知っており、その点検方法の意味を正しく理解し、良否の判断基準を明確にイメージして作業することが出来る。</li> <li>・各点検項目の装置の有無と点検の必要性を理解する。</li> <li>・点検の結果、否と判断した項目の部品交換や簡単な付帯作業ができる。</li> <li>・定期点検記録簿の正しい書き方を理解する。</li> </ul>					
<b>4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修試験での得点評価 70点以上で合格 出題試験項目 ・2年定期点検で点検整備した結果を点検整備記録簿に記入する</li> </ul>					
<b>5. 準備学習</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の実習「1年点検」を復習しておく。</li> <li>・2年次の実習「2年点検」を復習しておく。</li> </ul>					

※ ● ⇒ 実務経験がある教員

※ ■ ⇒ 日産資格保持者

一級自動車工学科

2023年度 授業計画

時期	単元	実習	教科名	評価実習Ⅱ	
<b>5. 授業概要 (時限ごとの主な授業内容)</b>				<b>6. 教科書、資料、備品類</b>	
時限	主な授業内容			資料、備品類	数量
1	付帯作業の実施			定期点検作業要領書	
2	↓			指定記録簿、2年定期点検記録簿 (振興会)	
3	2年点検 4車種1台目			中央日産1年定期点検手順書	
4	↓			電気自動車用24ヶ月点検記録簿	
5	↓			(ZE0用・メンテナンスノートより)	
6	2年点検 4車種2台目			2年点検記録簿 (別表6)	
7	↓			音波式ベルト張力計	
8	↓			電気自動車用2年点検記録簿	
9	2年点検 4車種3台目			C11	2台
10	↓			T31	2台
11	↓			Z33	2台
12	2年点検 4車種4台目			ZE1	2台
13	↓			Z33	2台
18	↓			K13	2台
19	付帯作業の実施			S15	2台
20	↓ 車両入替			T32	2台
21	2年点検 4車種1台目			ブレーキOH教材	
22	↓			パワーフォールド	
23	↓			端子抜き	
24	2年点検 4車種2台目			ねじ切りボルト	
25	↓			パンク修理セット	
26	↓			締め付け君	
27	2年点検 4車種3台目			タイヤ各種	
28	↓			ローター研削機	
29	↓			作業台	
30	2年点検 4車種4台目			バイス	
31	↓				
32	↓				
33	実技試験			付帯作業はクラスを2つに分けて4種の作業を1時限ずつ4回のローテーションで行う。	
34	↓				
35	↓				
36	↓				
37					
38					
39					
40					

一級自動車工学科

2023年度

授業計画

時期	C巡	単元	実習	教科名	評価実習Ⅱ
----	----	----	----	-----	-------

7. 安全 (KYのため必ず授業内で説明)

2023/4/1

番号	作業名	遵守事項	災害事例	チェック
1	リフト操作時	安全確認、声だし、目を離さない	車両落下、車両破損、	
2	エンジン始動時	運転席に座り、ドアを閉め、パーキングブレーキを引き、ニュートラル確認、ブレーキを踏み、安全確認及び声出しをして、始動すること。 始動時リフトを上げ、タイヤを地面から話しておく事。	車両の暴走により、机と衝突 作業中の作業者の巻き込み事故	
3	作業全般	回転部分への巻き込み防止	ヘルト、駆動系への巻き込み事故	
4	タイヤ回転時	絶対にスポークをもって作業しない。	ディスクとパッドのすき間点検時に、スポーク部を持ってタイヤを回転させた為、ホイールのスポークと、ブレーキキャリパーの間に指を挟まれ粉砕骨折。	
5	冷却水の量点検	エンジン暖機時は、ラジエータキャップを開けない。	火傷	
6	ベルトの緩み損傷点検時	イグニッションキーは必ずOFFにする事 ラatchetハンドルを使用する事。	最悪の場合、E/G始動の恐れあり スピナーを使用していた為、クッチンを食らって裂傷	
7	下回り点検等	保護具を必ず着用する事	目に異物混入（最悪の場合失明） 手の裂傷	
8	その他	エアホース、リフト操作リモコンは静かに戻す事	人に当たったり、破損の原因になる	
9	車両移動	必ず誘導すること 誘導時は車の真正面、真後ろに立たない	事故防止 暴走時の防衛	
10	検査ラインでの注意事項	検査ラインと車両との前後左右間確保 ライン内前後移動時の誘導確認 フリーローラー上での車両の挙動確認 ヘッドライトテスター使用時の注意喚起	事故防止  フリーローラーやラインリフトでの事故防止 ライト位置調整用レーザーからの目の損傷	

8. 授業レイアウト (写真の貼り付けも可)

